

ケアマネ交流会議事録

(平成30年6月15日実施)

テーマ

『大和川が氾濫するなら。 要介護者は？ あなたならどうする？』

第1部

① グループワーク

『平日15時 避難準備・高齢者等避難開始が発令されました。』

要介護者、利用者に支援を行いますか？ Yes or No 』

参加者 47名 内 YES/24名 NO/23名

【YESの方の行動】

- ◇ 町会の集会所に行く
事前の準備行動にそい、集合場に集まり手伝う
- ◇ 要援護者の家に行く
独居の方を優先に安否確認をする
- ◇ まずは声かけ
安心させてあげることが必要
近所の人に声かけをする
まず利用者（家族）さんに連絡くらいしかできないのが現状
避難所の開設状況等を把握し伝えたい
電話をする（ハザードマップにそって連絡をする）
危ないかもしれないので、気をつけて下さいと言うのはできる
2階か3階まで行けば大丈夫。逃げなくても良いという声かけ
- ◇ 手分けして動けたら、まず動きたい
- ◇ 情報収集をして優先順位を付ける
- ◇ 福祉避難所を利用者さんに常に伝えておく
- ◇ 避難をする前から情報収集に努める（防災・避難について準備しておく）
- ◇ 利用者 避難準備や現状を聞いておくのも大切（担当者）
- ◇ 携帯は繋がる状態にしておく
- ◇ 準備の発令を出す立場として動きたい
- ◇ 最高水位2.8m 地域の詳細図を色分けをした
- ◇ 個人的には子どもは安全なところにいるので、支援をする

【NOの方の行動】

- ◇ 地域が高台にあるのでとりあえず様子を見る
- ◇ 利用者の優先順位を考えてから
- ◇ まずは情報収集・自分の家族の安全を把握してから
状況不明のためやみくもにでない
誰に何をするか？情報整理をした上で動きたい
あわてて行っても何もできない
発令が出たから行くのではなく状況判断
地域で決まっていることもあり、知らないままに避難するように言うと混乱の元になる
- ◇ 平日の15時は仕事のためいけない
平日の15時は仕事で行けないが、時間帯・日にちによってはYesにする
会社員で勤めていて動けないため、町会の人に情報を頂く
平日の昼間だと仕事で不在の男性も多いので、まずは女性の協力者を探す
- ◇ 家族の避難を優先
在宅介護をしているので家族を助ける
自分の命を守る
自分の身内を大切にして事前に話し合っている
15時 近隣区に住んでいるので自分の家族を避難させるために行く
- ◇ 要援護者がどこにいるか不明、把握できていない
- ◇ 3階以上に住んでいる方は避難する必要がない
消防署の方に依頼して1階から2階に上げてもらった（昨年度）
家族の方がいる人は2階に上げてもらう
- ◇ 避難する事自体が危ない 自分の家の方が安全な事もある
- ◇ その時のいる場所による 利用者さんの近くにいるならYes
- ◇ 事業所（障害者）が避難場所になっている 車椅子の方とか、毎年防災訓練をしている
- ◇ 町会長のため本部立上げなどやる事がある
- ◇ 情報が集まる社協に努めているので、まとめて伝えたい
- ◇ 区役所の業務・対応がある
区役所は情報収集をする
- ◇ 優先順位の札をつける 皆が避難する訳ではない 電話応対でなかなか…
- ◇ 町会のボランティアとして支援をしないといけないと思っているが、高い階に住んでいるのに下の階に降りるのは危険、要援護者の事は気になるが、自分と家族も大切 独居の方が避難場所を間違っていたら教えてあげれるのか？と感じた
- ◇ 千駄町会ルールとして、水害の場合は避難しないと決まっている

② 各班の要約発表

A 班

- 協力者を探していく（町会）
- 優先をつけて安否確認（事業所）
- あせらず あわてず 情報収集
- 自分の所がどうなるか？日頃から知っておく
- 避難所の環境

B 班

- 放送（周知）方法の改善をしてほしい
- 本人・地域 正しい情報を把握

C 班

- 本部立ち上げが等が優先
- システムづくり（どの程度指標が必要）
- ご本人自身も“SOS”を出す
- お互い様—互助

D 班

- ケアマネはハザードマップ活用
- 普段から情報が大切
- あわてて行っても何も出来ない
- 常日頃からどこに伝えれば？

E 班

- 事業所は地域のルールを知らない
- 地域は事の動きを想定していない 住民が悩む
- 安心させる声かけ「まだ大丈夫」「避難しなくもいい」も大切
- 災害時要援護者支援台帳 救急カプセル 徘徊メール 等への登録

テーマ以外の各班での災害に関する発言

☆ 夜中だったらどうするか？

Yes

- ・ 集会場に夜中でも集まる
- ・ 100%の動きは出来ないが、動ける範囲で動いていく
- ・ 一晩が勝負 夜中に解除が出ても朝まで避難してもらう

No

- ・ 二次被害に陥る可能性があるため動けなかった
- ・ 去年もあったが、しばらく様子を見た方がいい
- ・ 事前に判断が必要

- ◇ 介護サービスを受けている人が混乱をする
 - 地域・ケアマネ・社協と情報が同じであればいい
 - 地域での情報を知っておかないと、同じ事を発信できない
 - ◇ 支援のとらえ方は色々
 - どこまでの人をどう支援するかが難しい
 - 高齢者を連れて行く判断が難しい
 - 同じ人に重護しても意味がないのでシステム作りが必要であり課題
 - ◇ 近隣の間人関係を作り、近隣で助け合うようにしておかないといけない
 - 過去の被災時でも、顔の見える関係のある地域は被害者が少なかった
 - 法改正となり、今一度コミュニティ作りに取り組んでいるところ
 - 要援護者自身が SOS 出して、身近な人との関係づくりをすることも必要
 - 互いを知っているだけでも良い 声をかけるだけでも OK
 - 助け上手・助けられ上手（ご本人から発信をしてもらう事が大切、各自助け合える人を持つこと）
 - 地域によっては「親しい友人」を聞いている
 - ◇ どこに避難をするのか？公園 or 墨江小学校？
 - 水害の場合は3階以上の建物に避難（地震は一時避難場所）
 - 避難発令が出てから川が氾濫するまで3時間ぐらいある
 - 自宅が大丈夫であれば、自宅にいる方が良い
 - 遠くに避難するなら高層のマンションへ誘導できればいい
 - 家族で事前に避難所を取り決めている
 - 公営住宅のエレベーターでは、車椅子1・2台入るのがいっぱい
 - ◇ 要援護者（利用者）には、避難所の環境がしんどい
 - ◇ 小学校には備蓄品がある
 - 避難所になく物を各家庭で備えておく（食料品以外の物 薬・おむつ等）
 - 避難する時、食料や必要備品（オムツ・薬等）は持っていく方が良い
 - ◇ トイレの心配
 - 簡易トイレ・パッド・リハビリパンツ等があれば便利
 - ◇ 非常時には役員だけでは回らない、役員だけでは無理であり、重荷である
 - ◇ 中学校との連携を進めている
 - ◇ いざ事が起こるとパニックになるので、訓練は大切
 - この時にはこう動くというマニュアルが必要になってくる
 - マニュアル・流れができれば、有事の時に下手に動くと混乱する
 - 直ぐに何をするか？の確認が必要
 - ◇ 要援護者支援台帳・救急カプセル・徘徊メールの登録があるが、登録だけで終わるのではなく、どう使いこなす、どう生かすか！見守り支援員が回り更新させるのがいいのでは？
 - * 1年に1回は訪問・返事のないところ、サービスを受けていない所を回る
 - * 未回答者・秘密保持もあり、町会長も大変
 - * ケアマネとしては本人の確認が取れたら、情報提供 OK
 - * ケアマネ・ヘルパーと直接連携が取れない
 - ◇ ペットの問題
 - ◇ 自分のできる事は何か？防災アプリの登録を…

③ 住吉区役所より

“行政の水害時の対応” “地域見守り支援システム” について

- ・ 11月10日（土）住吉区総合防災訓練を実施
- ・ 6月21日（木）15：50 アナログ試験放送・デジタル試験放送を比べよう

④ 墨江地域活動協議会より

配食サービス・救急カプセルについて
配布資料

- ・ 参加者名簿
- ・ 交流会アンケート
- ・ 救急カプセル説明書・申込み書
- ・ 水害から命を守るために！【墨江地域】～大和川氾濫等の水害への備え～
- ・ 墨江地域防災ハンドブック
- ・ 墨江連合町会区域図（発行：日本特殊地図協会）

⑤ 質疑応答

⑥ まとめ（住吉区社会福祉協議会）

第2部

① 配食サービス弁当による懇親会

立場の違いで様々な行動基準の発言がありました。

結論を出すグループワークではないので、色々な意見を各自が知り、判断をする基準となれば、この交流会を開催した意味があると思います。

また、テーマ以外の各班での災害に関する発言も、参考にする事がたくさんあり、それぞれの立場で今後役に立ててくだされば幸いです。

墨江地域活動協議会
大阪市住吉区墨江 4-15-22
TEL・FAX 06-6678-9286